

市谷の杜 本と活字館

大正期の RC 造建築物を免震レトロフィットにより復原・再生し場所の記憶を継承する



建物外観（撮影：株式会社プライズ）

建築概要

建設地：東京都新宿区市谷加賀町 1-1-1
 建築主：大日本印刷株式会社
 設計：株式会社久米設計
 施工：株式会社フジタ
 建築面積：400.05m²
 延床面積：836.54m²
 階数：地上 2 階、地下 1 階
 高さ：6.6m
 構造種別：鉄筋コンクリート造

選評

「市谷の杜・本と活字館」は「時計台」という愛称で地域および社員に 100 年にわたり永く親しまれていた。今回の整備に際し現存する貴重な RC 造建築である「時計台」を「場所の記憶を継承する建築」と位置付け、既存躯体を活かして創建時の状態に復元再生した。当時の装飾を含む外観、内観を極力変えることなく、不足する構造強度や耐久性を確保するために、免震改修化（免震レトロフィット）と再アルカリ化により復元を可能とした。内外装の再現については当時の設計図は残されていないため、現地調査、採寸、そして断片的な資料や当時の写真をもとに綿密に設計図の復元を行うことで、漆喰装飾、モザイクタイル、ファサードのモールディングなどでレトロな雰囲気と趣ある、活版技術の変遷を後世に伝承する展示館として蘇っている。さらに、都市計画上の新たな景観に適用させる配置のため、水平移動と上下移動の曳家移動まで行うことで「市谷の杜」と呼ばれる緑豊かな環境との調和を実現し、現代建築では得られない歴史の重みと優しさの両立を見事に実現している。以上により日本免震構造協会賞作品賞にふさわしい建築と考えました。（江副 敏史）

建築主：大日本印刷株式会社

設計者：株式会社久米設計

川井隆夫、藤村将史、大久保孝雄

免震・制振化した経緯及び企画設計等

「市谷の杜 本と活字館」は市谷地区の印刷工場の一部、営業所として大正 15 年（1926 年）に創建された。その後、増改築を繰り返しながら事務所として 2016 年まで利用されてきた建築である。

今回、地区の再開発整備事業に際し、場所の記憶を継承する建築と位置付け、既存躯体を生かして創建時の状態に復原・再生する計画とした。

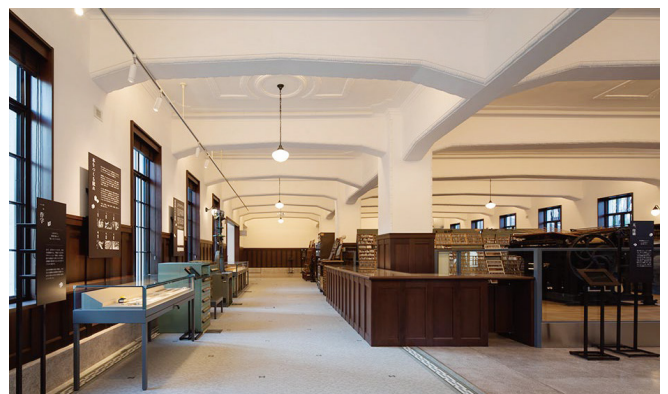
既存躯体はコンクリート強度が低く部材断面も小さかった。創建時の意匠を損なうことなく不足する構造強度や耐久性を確保するために、免震改修化（基礎免震のレトロフィット）と再アルカリ化を行った。また、再開発整備による前面道路の拡幅とレベル変更に伴い、延べ 73m の曳家と 3.5m のジャッキアップを行った。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

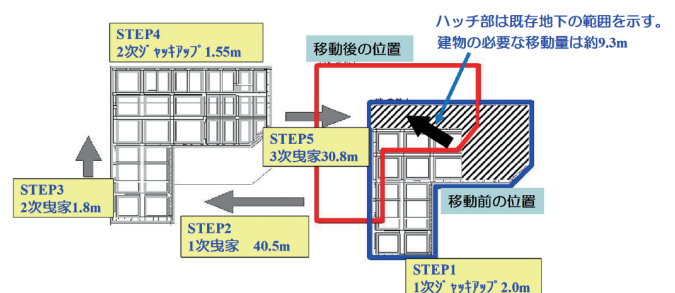
創建時の設計図は殆ど残されていないため、現地での採寸や内蔵された鉄筋の調査、同時代の文献資料などを元に建築図や構造図の復元を行った。

通常のレトロフィットとは異なり、曳家工事によって施工機械の高さ制限のない状態で杭や免震基礎工事が可能となったため、高品質な施工をより効率的に実現することができた。

2 階建てで建物重量が小さいため、重量に依らず固有周期を長くできる「球面すべり支承」を採用することで大地震時でも弾性域である 1/6000 以下の小さい層間変形角を実現し、RC 壁や袖壁に耐震スリットを設けることなく、創建時の外観を復原した。



建物内観（撮影：株式会社プライズ）



曳家 STEP 図